

特集対談 障がい者の就労支援施設

インタビュー

通常の事業所で雇用されることが困難な障がい者に、就労の機会を与えるための就労支援事業を始めたきっかけを教えてください。

設立時、能代市には障がい者の就労の場が少ない状態でした。養護学校を卒業した後の子供たちが将来自立していけるようにと、心配した父兄が集まり、それならば自分たちでそういう施設をつくらうということで、就労支援事業を始めました。

施設を開いてから何年目になりますか、そして現在の利用者の数は？

今年で13年目になります。利用者は現在19人で、定員は20人くらいですがスペースの問題もあり、少し手狭に感じています。

施設での作業はどのようなものでしょうか。

畑を借りて大豆や小豆を栽培しています。畑の耕起や播種などはほとんど機械作業ですので職員で行っていますが、収穫した物をよい物、悪い物に選別する作業を利用者さんをお願いしています。大豆はみその原料にしたりしますし、小豆は知り合いのお菓子屋さんで買い取っていただいています。また地元のクリーニング屋さんから依頼されたオシボリを畳んで袋詰めする作業や古紙を仕分する作業も行っています。

施設を運営するに当たり何か大変なことはありますか。



多少はありますが、特に大きく感じることはないです。ただ父兄が集まった時、重度の障がい者でもショートステイできる場所があればという話はよく出ます。また今は親の私たちがいるし、まだ若いので深刻ではないが、いずれ一人になる時が来る、その時の心配はあるという話も出ます。

地域や行政にどのようなことを要望しますか。

いろいろな企業や職業の方たちに私どものような施設があることを知っていただきたいと思っていますし、施設に来て作業内容や入所者が一生懸命頑張っているところを見ていただき、障がい者の雇用について理解を得られればと思います。また、御理解いただくことでさらに障がい者の雇用がふえていけばと思います。

この施設を運営している中でやりがいがあると感じたことは？

作業の中で利用者の方々の意外な一面や才能を見つけたら、新しい作業を覚えたりした時は非常にうれしく感じます。それを励みに今後とも頑張っていきたいと思っています。

ほかにもいろいろ話を伺うことができました。御協力どうもありがとうございました。

(落合範良、落合康友)